

令和7年度ひみ未来づくりミーティング議事録（加納地区）

日時	2025/7/25 19:00～
場所	加納地域まちづくりセンター
出席者	48名 市長、政策統括監、総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、防災・危機管理監、消防管理監、地域振興課、地域担当職員
進行	19:00～19:03 市長あいさつ 19:03～19:05 出席者紹介 19:05～19:32 市政の概要について（市長説明） 19:32～20:11 意見交換 20:11～20:15 閉会あいさつ 市長、地区代表

	質問の内容	回答
1	<p>■災害公営住宅について(1)</p> <p>・災害公営住宅の入札について①旧栄町医師住宅敷地は無事に落札されたが、②比美乃江小サブグラウンド敷地は不落になったと聞いた。②は諏訪野自治会内となるが不落になった要因はいたい何か教えてほしい。</p> <p>・再入札になるとも聞いたがスケジュールも教えてほしい。</p>	<p>■建設部長</p> <p>・契約が終わっていないので詳細は言えないが、落札した業者は資材調達のルートがあるところであった。2つとも応札がない場合は単価が合わないということかと思われるかもしれないが、そうではないのでギリギリのラインではないかと思っている。</p> <p>・具体的なスケジュールは決まっていないが、速やかに再入札をかけて、①旧栄町医師住宅の完成にできるだけ近いところで完成できるように努力してまいりたい。</p> <p>■市長</p> <p>旧栄町医師住宅敷地とできるだけ差がないように進めてまいりたい。</p>
2	<p>■災害公営住宅について(2)</p> <p>1年前の単価で計算していて、物価高騰があったためではないのか。</p> <p>また、不落になった方は、工事価格が5000万円低かったからではないのか。</p>	<p>■建設部長</p> <p>おそらく物価高騰も理由の一つであると思っているが、それがどれくらいの割合であるかはわからない。</p> <p>5,000万円については、どちらかという基礎部分の差であり、建物部分は大体同じである。</p>
3	<p>■デュアルキャリア制度について</p> <p>人口減少対策の成功例として、市内の企業でのハンドボール富山ドリームスのデュアルキャリア制度がある。引退後、そのまま企業に就職したり、市内の女性と結婚したりしている。市としての評価や応援策を聞かせてほしい。</p>	<p>■教育次長</p> <p>トップスポーツを活用した地域活性化事業(地域活性化起業人)が3年の期間となっていることから、7月で完結する。ハンドボールによるまちづくりの一環としてトップチームをつくることで多くの若者がやって来た。22年度は1ターンで県外から9名、Uターンで3名、23年度は1ターンで12名、Uターンで1名、24年度は1ターンで7名、国外から1名と本当に多くの選手が来てくれた。その選手たちが就職、結婚されて、結婚相手も連れてくるという事例もあった。今後もこうしたトップレベルの人材を活用した施策を検討したいと考えている。</p>
4	<p>■液状化対策について(1)</p> <p>春に堂故さんに液状化対策の「地下水位低下工法」の実例はあるかを尋ねると、熊本で7年たっても完了しない例や井戸が枯れた例があったと聞いた。</p> <p>対策を取ることで、北大町や新道に大分戻ってくる人もいられるだろう。</p>	<p>■建設部長</p> <p>液状化について、該当する地区住民に7/31からお盆にかけて地元説明会を行う予定である。</p> <p>地下水のくみ上げをどの程度行か、あるいはどこから抜くかの実証実験をできるだけ近くで行いたい。支障がないかを検証して、できるだけ早く進めるようにしたい。</p>

5	<p>■液状化対策について(2) 富山湾は、世界で一番美しい湾クラブに加盟しているが、なかでも氷見が一番だと思っている。立山連峰が眺められる氷見をもっと紹介していくべき。もっともっとPRして、空いたところに移住してもらったり、企業に活用してもらったりするべきである。もっと言えば、氷見線を氷見駅から番屋街まで伸ばしてみるなど、思い切った政策はどうか。そういった強い思いで取り組んでほしい。</p>	<p>■企画政策部長 地方創生とは、強みをどう生かしていくかであり、氷見市にとってはひみ番屋街がいちばん集客がある施設で核になっていると思っており、氷見駅から人をどう運ぶのが重要である。そのようなことも含めて、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定してまいりたい。</p> <p>■市長 解体の結果、一等地にも見える土地に、多くの空地が生まれている。宅地にするのか、オフィスにするのか、さまざまな可能性があると思っている。さまざまな案がある。地名は有名だが、ブリ以外がいまいち伝わっていない。SNSを使って魅力を伝えていきたい。</p>
6	<p>■加納地域まちづくりセンターの体育館の工事について ライトについて、蛍光灯を外して、また設置すると聞いている。LEDを推進する時代にあって、再び蛍光灯をつける理由は何か。</p>	<p>■教育次長 災害復旧の工事は、「元の状態に戻す」ことが原則である。一方、脱炭素化推進の観点からは公共施設のLED化を進めることも必要と考えている。今回の修復にあたって、この場で断言はできないが、もう一度足場を組んで照明を取り換えるのは無駄であると思う。事業費等を比較し、検討してまいりたい。</p> <p>■市長 しっかりと前向きに対応してまいりたい。</p>
7	<p>■氷見市の今後について 復興予算で100億近く有効に使われながら、今後もしばらく国からの支援が得られるのではないかと期待しているところ、氷見市と国をつなぐ方がいなくなった。今後とも国への要望をお願いしたい。 このままでは、あらゆる方策をとったとしても氷見市は消滅していくと思っている。子育て支援や城端線・氷見線の活用を行っても、他市町村との人の取り合いでしかない。加納地区もアドバイスをうけた、地域の人が地域のためという「小規模多機能」をどんどん進めていくと、人員や予算について市から提供を受けなくとも、水道検針を市から委託を受けて実施するなど、地区でお金を儲けて、地区で課題解決していけるということだが、検針員の雇用を奪うことにもなる。 あえて発言するがインフラ維持の観点からすると、インフラ自体を減らすというのはどうか。市として、人が住むエリアを2分の1ないし3分の1に縮小していくのはどうか。時間をかけて、山間部から市街地に移住を促し、老朽化した水道の維持をなくすなど。 極端な言い方だが、それぐらいの覚悟は必要ではないか。消滅都市になりそうになったときに、どのような対処を行うか、これぐらいのことは覚悟してもらおうという危機意識をもってもらうことも大切ではないか。長期的に氷見市をどうとらえるのか。</p>	<p>■企画政策部長 地域づくり協議会について、市として23地区すべてをこれからも持続させていく。そのため、すべての協議会ができたなら、いろいろな分野の補助金をまとめて一括して交付し、その使い道を地域に一番近い方々に決めてもらう。まずは人口減少に対して地域の方々が危機感を持って地域をどう守っていくかを市も一緒に考えてまいりたい。</p> <p>■市長 こうした意見をいただけることがミーティングを行った意義。こうした危機感をもっていなければ、なかなか氷見は立ち行かないと思っている。まずは、市民の皆様が幸せで、氷見に住んでよかったなと思っただけでないと他から人は入ってこない。同じ方向を向いてやっていかなければならないと思っているので、ご理解とご支援をお願いしたい。</p>